

あきたみどり 加工適性に優れた早熟、良質安定多収の青大豆。

1 加工適性

(1) 加工上の長所・短所

秋田県の在来種「青目大豆」に放射線を照射し、突然変異により早生、短莖化を図った品種です。加工適性は原品種である「青目大豆」と大きな違いはなく、子実成分（粗蛋白、粗脂肪、灰分）、豆乳成分、オカラ成分とも「青目大豆」並で、豆腐は破断強度、ヤング率が高く物性は良好です。子実は「極大粒」で、粒形は「扁球」、種皮及び子葉の色は緑色で煮豆としても利用できます。裂皮の発生が原品種並みにみられます。

(2) 品質に関するデータ

| 項 目 | あきたみどり | 青目大豆 | 秋試緑1号 |
|------------|--------|------|-------|
| 粒大 | 極大 | 極大 | 極大 |
| 百粒重(g) | 44.2 | 44.3 | 40.7 |
| へその色 | 黒 | 黒 | 黒 |
| 粗蛋白質含有率(%) | 41.2 | 42.7 | 41.2 |
| 粗脂肪含有率(%) | 14.3 | 12.4 | 13.1 |
| 種皮の色 | 緑 | 緑 | 緑 |
| 粒の子葉色 | 緑 | 緑 | 緑 |
| 粒形 | 扁球 | 扁球 | 扁楕円体 |

注1) 平成7～10年度秋田県農業試験場大豆奨励品種決定調査結果。

2) 子実粗蛋白質含有率、粗脂肪含有率は平成8年度秋田県総合食品研究所による分析結果。

(3) 主な用途における加工適性試験成績

・豆腐加工適性試験の成績（秋田県総合食品研究所）

| 項 目 | あきたみどり | 青目大豆 | 秋試緑1号 |
|----------------------------|---------|---------|---------|
| 豆乳量／オカラ量 | 706/265 | 716/213 | 656/274 |
| 破断強度(g/cm ²) | 60.0 | 57.3 | 36.3 |
| ヤング率(dyn/cm ²) | 269076 | 234235 | 198772 |
| 変形率(%) | 22.1 | 24.2 | 18.2 |

注) 材料は平成7年秋田県農業試験場産を使用。

2 栽培特性

(1) 栽培上の長所・短所

原品種の「青目大豆」と比べ、成熟期が13日早く、主茎長が16cm短く、耐倒伏性が優れることから栽培しやすい品種です。収量は11%程度多く、粒揃いが良く、外観品質が良好です。ウイルス抵抗性及びシストセンチュウ抵抗性は持っていません。

(2) 栽培特性に関する育成場所での試験結果

| 項 目 | あきたみどり | 青目大豆 | 秋試緑1号 |
|----------------|-----------------|---------------|---------------|
| 収量(kg/10a) | 289 | 261 | 283 |
| 早晩性 (成熟期) | 晩生の早 (10.19) | 極晩生 (11.1) | 中生 (10.13) |
| 主茎長(cm) | 86 | 102 | 69 |
| 主茎節数(節) | 16.0 | 18.1 | 15.1 |
| 分枝数(本) | 4.4 | 4.9 | 3.6 |
| 外観品質 | 上 | 中の上 | 上 |
| 耐倒伏性 | やや強 | 中 | 強 |
| ダイズシストセンチュウ抵抗性 | 弱 | 弱 | 弱 |
| ウイルス病抵抗性 | 弱 | 弱 | 弱 |

注1) 平成7～10年度秋田県農業試験場大豆奨励品種決定調査結果。

2) ダイズシストセンチュウ抵抗性及びウイルス病抵抗性は平成7年及び平成9年東北農試大豆育成研究室による検定結果。

3 栽培地域（平成20年産）

秋田県 70ha

4 栽培上の留意点

- 1) 秋田県内の播種適期は6月上旬～下旬で、遅播きほど密植にします。10a当たりの栽植本数は6月上旬で14,000本、6月中旬で18,000本、6月下旬は22,000本程度が適当です。倒伏を抑えるために、基肥施肥量は窒素成分で2.5kg/10a以内とします。
- 2) 晩生であるため、山間高冷地、小麦後作には適しません。
- 3) ダイズシストセンチュウ発生ほ場での作付けは避け、アブラムシ防除を徹底して下さい。品質確保のため適期収穫を行って下さい。

育成場所：秋田県農業試験場（平成10年育成）
問い合わせ先：秋田県農業試験場作物部畑作物担当
tel 018-881-3338 fax 018-881-3304